



## talk! talk! talk! モデル・LIZAさん



### モデル LIZAさん

チャーミングな笑顔と抜群のスタイルで、女性誌を中心に活躍中のモデル・LIZAさん。得意のドイツ語を活かした語学番組のMCや、バラエティ番組のMCをこなすなど、ますます活躍の場を広げている。モデルとして撮られる側の経験も豊富な彼女が気づいたのは、写真を通じた「つながり」の感じ方。写真に込めた強い思いを存分に語っていただいた。

#### プロフィール

1989年7月5日、ドイツ生まれ。幼少の頃に日本に移住する。小学館「Oggi」、講談社「GLAMOROUS」、光文社「JJ」など女性誌をメインに活躍するモデルで、読者からの人気も高い。神戸コレクション（神戸・東京/上海公演）、Tokyo Girls Collectionといったショーへの出演も多数するほか、2007年4月CX「奇跡体験!アンビリバーボー」準レギュラー、2008年4月MBS・TBS「イマドキッC」パーソナリティーを務めるなど、近年ではラジオやテレビ番組へと活動の場を広げている。2009年3月からはNTV「アナザースカイ」レギュラーMC、また2009年4月からはドイツ語バイリンガルとしての語学力を活かし、NHK教育テレビ「テレビでドイツ語」にメインMCとして出演が決まっている。

## Beginning 出会い

### 幸せがまった、最高の「一瞬」を切り取る喜び

写真はいつ頃から始められたのですか？

学生の頃から撮っていました。私は在日ドイツ人学校に通っていたんですが、毎年学年が終了する頃に、お疲れさま旅行のような行事があったんです。その際は必ずレンズ付きフィルムを持って行って、みんなを撮っていました。カメラは常に持っていましたね。

現在もカメラは毎日持ち歩いているのですか？

はい。今はデジタルカメラを持ち歩いています。携帯電話やiphone、トイカメラで撮ることも多いですね。以前は父にももらったフィルムカメラでも撮影していたのですが、調子悪くなってしまって。特に撮影機材にはこだわらずに写真を撮っています。

早い時期からモデルの仕事がされていたと思うのですが、その影響はありましたか？

お仕事をさせてもらうようになったことで、フォトグラファーさんがどういう風に撮影を組み立てて、どんな仕上がりを想像しているのかを考えるようになりました。ほかのモデルさんの撮影の間は、フォトグラファーさんの横に立って同じ目線から被写体を見るんです。アングルや距離感を頭に入れて「こういう風に撮ったらカッコよく撮れるんだ！」などと勉強していました。

仕事をするかたわらで、徐々に意識も変わっていったのですか。

そうですね。写真を撮り始めた当初は、単純に思い出を残したいという気持ちだったり、友人たちとどこかに出かけた際、母に「ここに行ってきたんだよ」と見せて話すために撮っていました。でも撮影しているうちに、私は「瞬間」というものにとっても敏感だと気づいたんです。たとえば、すごく楽しい！と思うときには無意識にカメラを手にしていて、感情が高ぶったその瞬間を絶対に収めたいと強く思うようになっていたんです。一瞬を捕まえられる写真にどんどん夢中になっていきましたね。

楽しくて、興奮状態でもその一瞬を撮ることは忘れないのですか。

私は友人たちと大勢でワイワイ盛り上がっている時も、その場から一度意識を離して「すごく楽しそう！」と客観的に感じるんです。誰かが楽しんでいるのを眺めるのが好きで、みんなのパワーが最高だな、と感じた一瞬を撮りたいと思っています。

楽しい空間の中で一体となるのではなく、その状態を冷静に見ているのですか。

多分それはクセみたいなものだと思います。私は今でこそ人前に出るお仕事をさせてもらっていますが、小さい頃は自分から前に出られる性格ではなくて、みんなが遊んでいる輪の中に「私も入れて」のひと言が言えないような子だったんです。その代わり、遊んでいるみんなを見て過ごすのが好きで、よくブランコに座りながら周りの子たちの様子を眺めては、「あの子今すごく楽しそう」、「あの子いじめっ子なんだな」というような感じたり、気づいたりしていました。それが大人になった今でも出てしまうんだと思います。

## Pleasure 楽しみ

### 感情は光と色の表現にのせて

LIZAさんにとって最高に楽しい瞬間を収めるためには、カメラが不可欠なのです。

そうですね。映像もすごく好きですが、映像の場合、最高の瞬間がその中にあったとしても、写真ほど印象に残らないように思うんです。最高の瞬間は、一秒にも満たないほどわずかな一瞬。写真は明確にその瞬間を収めることができるものだと思います。楽しさがその1枚にギュッと凝縮されていて、思い入れが強ければ強いほど、その時の匂いや空気、音まで自分の中で再現される。そんな感覚を覚えさせてくれるのが写真なんです。

では今回お持ちいただいた作品も、思いのつまった1枚1枚ということなのです。

はい、今まで撮影した中でも、特にいい一瞬を撮れたと思ったものをセレクトしてきました。どれも自分の気持ちと被写体が繋がった、そんな場面なんです。

被写体と気持ちが繋がるというのは？

写真はカメラという機械が撮っているけれど、それを操作しているのは感情のある人間ですよね。だから被写体が人であっても、風景であっても、向き合う相手とお互いに気持ちがひとつになれたときに良い写真が撮れると思うんです。

撮る相手と心の波長が合う、そんな感じでしょうか？



そうですね。それはモデルの仕事をしているからこそ感じられたのかもしれませんが、時々フォトグラファーさんとすごく気持ちが合っている！と思う瞬間があるんです。レンズ越しに相手の心がわかるというか。これは私が勝手に思っているだけかもしれないんですけど（笑）。その場に私とフォトグラファーさんの二人だけになったような感覚。撮られている側としてはその瞬間は最高に気持ちがいいんです。そういった経験があるから、自分が撮る側に立ったときも、お互いの空気感を大切にしています。

写真を撮る時は技術的なことよりも、フィーリングを大事にしているんですね。

お仕事として撮るのであれば、いろいろ技術的な面も勉強しなくてはと思いますが、私にとって写真はあくまでも趣味。一番大事なのは気持ちです。一度雑誌の連載で、フォトグラファーさんにアドバイスをもらいながら写真を撮るとい企画をいただいていた時も、教わったのはその時の心のリズムや感情が大切だということだったんです。もちろん最低限ピントが合っている、合っていないかなどは重要ですが、特別な技術はいらない、自分なりに楽しむことが一番だということが確信できました。

なるほど。LIZAさんの作品は見る側もすごく楽しめますよ。遊び心を感じますし、光も効果的に使われていますよね。

ありがとうございます。撮影後に色やコントラストを調整して仕上げることは多いですね。絵も好きで、写真と同じように光や色を使って描くんですよ。

撮影したものをそのままではなく、加工するのは何か意図があるのですか？

写真はあくまでも撮影者の過去だから、誰かに見せたとしても私自身が撮影した時に感じた100%の感情を伝えるのは不可能ですよ。でも、できるだけ自分が感じたそのままの空気を写真に表現したくて、光や色を強調してイメージを作り出しているんだと思います。

自分の中にある感情が、工夫という形で写真の上ののっているという感じでしょうか。

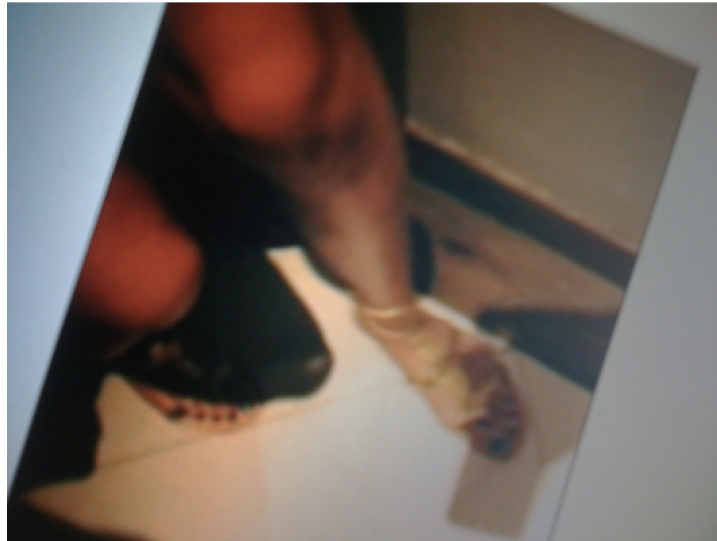
そうだと思います。自分だけかもしれませんが、加工をした方が後で見返した時に気持ちがグッと入っていただけるんです。写真を撮った瞬間の前後が見えてくるような、表面的じゃなくて、もっと深くまで見えるような奥行きや空気感を入れたいなとも思います。

---

## Photo's 作品紹介

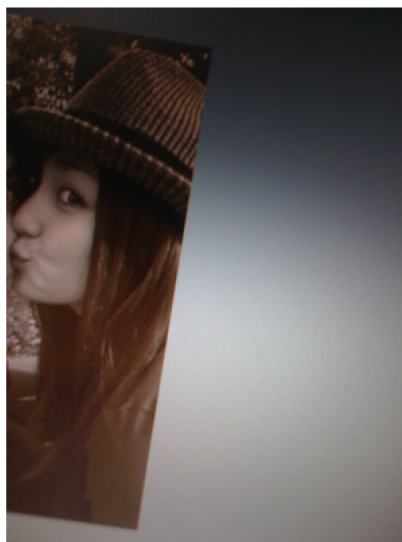
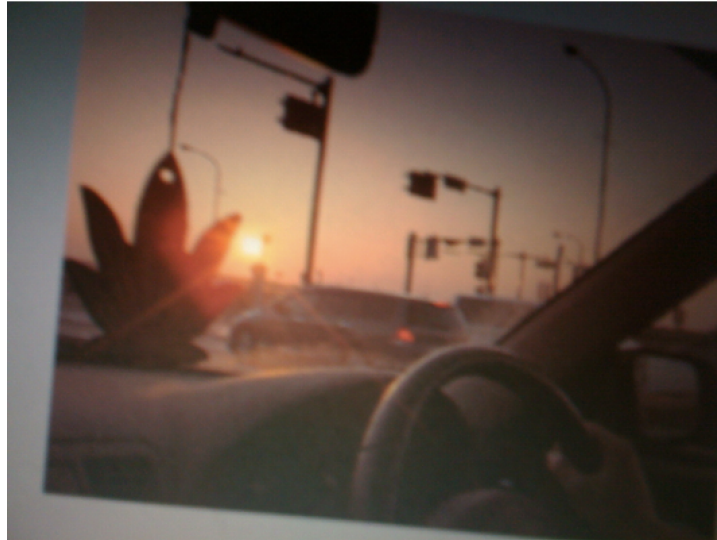
キラキラ輝く、最高の瞬間をギュッととじ込めた作品群

---









---

## Future これから

### 新たな感情の表し方を模索していく

絵を描くことや映像がお好きとのことですが、クリエイティブなことに興味がありそうですね。

それほどかっこいいことはできないんですが、好きですね。小さい頃も、紙とペンさえあれば黙って大人しくしているような子供でした。

絵を描くことと写真を撮ることの違いは何でしょうか？

どちらも好きだし、それぞれにいいところがあるんですが、今は私の中では写真の存在の方が大きいですね。みんなが楽しそうにしている瞬間が好きで、それを表現する際、パパッと絵に描くのは難しいから……。その点写真だったら気楽に撮れるし、より私

の伝えたいものに近いものが作れる気がしています。絵は完全に自分だけから発生するものですが、写真はまず被写体が存在して、その被写体を自分なりに表現することができる。撮る側と撮られる側の関わり合いの中で作られるというところにも、魅力を感じています。

写真を撮る中で自分が変わったと思うことはありますか？

昔から感情、インスピレーション、フィーリングやシックスセンスなどについて話すのが好きだったんですが、写真を撮り始めてからよりいっそう好きになりました。そういったものは絶対にあると思うんですね。たとえば、ふと太陽の輝きに惹かれた時は、太陽からの気持ちが私に届いたと感じるんです。私が今すごく楽しくて心の中で「ありがとう」と感謝したことに、輝きで答えてくれたんだろうなと、そんな風に思うんです。写真を撮ることによって、人や自然はもちろん、目に見えないものとも繋がれる、ということを感じています。



写真を撮るという行為は、自分の感覚を明確にしてくれる存在とも言えるのでしょうか？

はい。思っただけのものが、証明されるという感じです。写真は自己表現の手段としてはとても優れていて、さまざまな感情をあらわせるものだと思います。自分の中に持っているものが全部出せるし、それが誰かと同じなんてことはないんですよ。自分というものを感ぜられるものです。

表現というものに強いこだわりをお持ちなんですね。これから写真で表現していきたいものはありますか？

表現対象をはっきりこれ！とは言えませんが、写真はこれからもずっと撮り続けていきたいと思います。それをいつか、まとめて皆さんの前にお見せすることができたらいいですね。写真だけじゃなくて、文や絵も一緒に入れて、いくつかの手段を使って何か表現してみたいです。

また新たな世界が出来上がりそうですね。楽しみにしています。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.